

日本医史学雑誌第四十一巻総目次

原 著

日本におけるカスバル・シヤムベルゲルの活動

について……………ヴォルフガング・ミヒェル……………三〇三

マルシリオ・フィチーノの健康論……………伊藤 和行……………二九〇

済生学舎廃校後の各種講習会及び私立東京医学校・

私立日本医学校……………唐沢 信安……………四〇七

海軍大医監 奥山虎炳(一八四〇—一九二六)

……………深瀬 泰且……………三二〇

初代曲直瀬道三の癩医学……………鈴木 則子……………三六六

モアビット病院の受難の背景——ナチス支配下のドイツ

医学の一側面……………泉 彪之助……………五二

島村鼎甫の業績と記録……………津下 健哉……………五三〇

宇和島藩医ストライキの事——御医師中不和一件

……………林 敬……………五九〇

研究ノート

シーボルトの臨床医学——『蘭方口伝(シーボルト験方録)』

の検討……………中村 昭……………二二

長屋王家木簡の醬・味滓請求文書——『葛氏方』との関連

から……………東野 浩之……………二二九

西洋、中国、日本のジフテリア史素描

……………中村 昭……………三九〇

『紅毛医術聞書』にみる合田大介のカンケル論

……………長与 健夫……………五七〇

軍医寮発足のさいにみられた東校と兵部省の確執

……………深瀬 泰且……………五七〇

資料

池田文書の研究(十三)……………池田文書研究会……………三二〇

十七世紀の平戸・出島蘭館の医業関係者について

……………ヴォルフガング・ミヒェル……………四〇三

法隆寺藏(医薬調剤古抄) 釈読

……………アンドリュウ・ゴープル……………五九三

江戸幕府の医療制度に関する史料(六)——鍼科医員

……………島浦(和田)・島崎・杉枝・栗本家『官医家譜』など——

……………香取 俊光……………六五〇

追悼

追悼 赤松金芳先生……………大村 敏郎……………三二〇

王丸勇先生の逝去を悼む……………中山 茂春……………六七〇

記事

消息

第34回医学史研究会・日本医史学会関西支部

一九九四年秋季合同総会……………長門谷洋治……………三二四

海外関連学会との交流……………真柳 誠……………四二

近藤均氏(紹介)『ヴェサリウス著・人体構造論抄』

中原訳(本誌四〇巻第四号)に寄せて……………永田 和弘……………四三

永富獨嘯庵(二三〇)回忌追善祭(報告)……………岡村 芳樹……………四三

日本医史学会関西支部一九九五(平成七)年春季大会	長門谷洋治	四四〇
「宮崎医学所之跡」建立に就いて	田代 逸郎	六九
入澤記念庭園の整備事業を終えて	小坂井昭吾	六二〇
例会抄録		
ハンガリーのゼンメルワイスの遺跡を訪ねて	蒲原 宏	三三五
A. Vesalius: Epitomeのラテン語原典および独・蘭・仏	近藤 均	三六
・英語版の特色(一)		
ヴイデオ供覧「呉家の人びと		
(野間祐輔先生出演)	岡田 靖雄	三六
憑きもの再論	岡田 靖雄	三六
帝国大学医学部歯科の軌跡	榊原悠紀田郎	三六
漢代の解剖学	家本 誠一	三八
ロンドン病院博物館報告	山根 信子	三〇
永富独嘯庵(漫遊雜記)にみる神経症概念について	小曾戸明子	三三
箕作阮甫「産科簡明」と原著者及び原著について	石原 力	三三
三人の女良と一人の虎章——海軍大軍医奥山虎章	深瀬 泰且	三六
我国医学界初のX線実験臨床講義者・丸茂文良	唐沢 信安	三七
田邊一雄と復十字会活動	田邊 正忠	三六
熱海 喩汽館	尺 二郎	三八
前近代の受胎調節をめぐる	新村 拓	三八
『鎮府府日誌』について(その一・序説)	中西 淳明	三九

陰陽——中国古代医学の枠組み概念 其の一家本 誠一……三〇
 紹介

「医療人類学研究会編」文化現象としての医療」……津谷喜一郎……三九
 名古屋大学医学部整形外科同門会編集「名倉重雄伝」

千葉県立中央博物館編集「リンネと博物学——自然誌科学の源流——」……津山 直一……四一
 酒井忠夫・今井三郎・吉元昭治編「中国の靈籤・

薬籤集成」を読んで……難波 恒雄……四九
 福田真人著「結核の文化史」……藤倉 一郎……四四

長谷川正康著「嚙む——歯は生命」……谷津 三雄……四四
 神農五千年刊行委員会編「神農五千年」……猪飼 祥夫……四四

寺師睦宗著「漢方を築いた先哲」……小曾戸 洋……四四
 山本亨介著「種痘医小山肆成の生涯」……深瀬 泰且……六三

大塚恭男著「医学史こぼれ話」……大村 敏郎……六四
 岩田誠著「ペールラシェーズの医学者たち」……大村 敏郎……六五

S・ライザー著・春日倫子訳「診断術の歴史——医療とテクノロジー支配」……藤倉 一郎……六七

安井広著「ペルツの生涯——近代医学導入の父——」……岩崎 鐵志……六八

武内博編著「日本洋学人名事典」……宗田 一……六九
 石山昱夫訳「メンデ法医学小史(二八一—九)

……小関 恒雄……六九

医史学文献目録 平成五(一九九三)年

……順天堂大学医史学研究室編……四九
 日本医史学雑誌四十巻総目次……六五

第九十六回 日本医史学会総会演題目次

会長講演

日本における血液学・輸血学史の流れより

..... 日比野 進：一五

特別講演①

飛驒の庶民・農民の生活史から得られたもの

——往還寺過去帳の研究..... 須田 圭三：一六

特別講演②

江馬家文書世界を生きた人々..... 岩崎 鐵志：一六

特別講演③

尾張藩・名古屋を中心とした江戸時代の

医療の流れ..... 奈倉 道治：一七

一般口演

1 『扶氏診断』 訳者への疑問

——島村鼎甫の可能性——..... 津下 健哉：一八

2 石阪堅壮（肝吸虫発見者）の著述に

ついて..... 中山 沃：一八

3 芸南の先人たち 特に『迨孫疫病考』を

めぐって..... 江川 義雄：一八

4 尾張・三河の種痘史 補遺

..... 山田 英雄・山内 一信・高橋 昭：一八

5 『元禄世間咄風聞集』所載の医薬学

関連の咄..... 浜田 善利：一八

6 産科医兼子元隣とその著書『産科成解』(1)

..... 奈倉 道治：一三

7 古代における瀉血..... 藤倉 一郎：一四

8 江戸前中期の瀉血療法：友部 和弘・真柳 誠：一六

9 魯迅医学筆記について..... 泉 彪之助：一六

10 名古屋における太田正雄..... 長門谷 洋治：一〇

11 富士川游と看護療法..... 平尾 真智子：一〇

12 藤浪鑑先生病症記・葬送記及び追悼文集

について..... 杉立 義一・杉山 武敏：一〇

13 三浦梅園における獣胎解剖の視座..... 近藤 均：一〇

14 永富独嘯庵（『漫遊雜記』一七六三年）

にみる「狂」の用語について..... 小曾戸 明子：一〇

15 精神科病医アルブレヒト・フォン・

ローレツ..... 岡田 靖雄：一〇

16 アルブレヒト・フォン・ローレツの研究(2)

..... 小形 利彦・エリツヒ・ラブル：一三

17 長崎家収蔵の『折肱録』について..... 正橋 剛二：一四

18 長崎浩斎筆『味噌欺録』と「淋石」

..... 寺畑 喜朔：一六

19 杉田玄白門人高峰幸庵について..... 津田 進三：一八

20 向井元升と『紅毛流外科秘伝』について

..... ヴォルフガング・ミヒエル：一〇

21 藍屋佐兵衛の妻と勝股元碩の妻——青洲の

乳癌患者について..... 松木 明知：一三

- 22 不破家華岡流手術図について
 山内 一信・不破 洋…三〇四
- 23 明治期ドイツ留学もしくは視察した眼科医達
 奥沢 康正・ユルゲン・コバチ…三三六
 サロモン氏産科鉗子 石原 力…三三六
- 24 済生学舎廃校後の各種講習会及び私立東京
 医学校・私立日本医学校 唐沢 信安…三三〇
- 25 『日本聖公会教役者名簿』記載の来日外国人
 医師について 高安 伸子…三三三
 宇良田唯子とその時代 三崎 裕子…三三四
- 26 池田文書と侍医制度 遠藤 正治…三三六
- 27 医学系の海外留学生（韓国一八九六〜一九四五）
 奇 昌徳…三三八
- 28 幕末から明治中期にかけての英米系医学の受容
 大滝 紀雄…三三〇
- 29 第二次大戦後の医学教育変革について
 酒井 シヅ…三三四
- 30 暉峻義等の社会衛生学への傾斜 三浦 豊彦…三三四
- 31 中国医学と道教（XVI・西遊記） 吉元 昭治…三三六
- 32 雲夢睡虎地秦墓竹簡にみるらしい病の診断と法律
 猪飼 祥夫…三三六
- 33 『素問』・『靈樞』における非医籍からの引用
 岩井 佑泉…三三〇
- 34 南化本『史記』幻雲附標に引かれる『存真環中図』
 杉田 暉道…三三〇
- 35 不破家華岡流手術図について 宮川 浩也・真柳 誠・小曾戸 洋…三三三
- 36 蘇頌と『図経本草』 王 少麗…三三三
- 37 幻雲が引用した『東垣十書』
 真柳 誠・宮川浩也・小曾戸洋…三三三
- 38 北尾春圃著『当壮庵医按』について 安井 広迪…三三六
- 39 月舟寿桂から曲直瀬道三へ——『禪本草』をめぐる
 小曾戸洋・宮川浩也・真柳 誠…三三〇
- 40 「銭七」は「銭上」の訛：郭 秀梅・岡田 研吉…三三三
- 41 徳川昭武公の『順天堂入院日誌』について（第一報）
 中西 淳朗…三三〇
- 42 本邦最初の血液学書入沢達吉纂訳『血液病理学及
 図譜』について 会田 恵…三三六
- 43 臨床検査という言葉の発祥と内容の史的推移——特に
 臨床検査技師の発展との関連について 谷島 清郎…三三六
- 44 医療関連資料（史料）の現状と問題点
 網野 豊・酒井 シヅ…三三〇
- 45 名古屋博物館所蔵の木骨について 蒲原 宏…三三三
- 46 「みる」ための画像と「みせる」ための画像
 高比良英輔…三三〇
- 47 新幹線の発音は [jinkanzen] か
 柴田 幸雄…三七六
- 48 学術語のカタカナ書きについて 石原 理年…三七六
- 49 西紀町のアスクレピオス像 杉田 暉道…三七六
- 50 患者の心性および「よい患者」の歴史的考察
 杉田 暉道…三七六

- 51 古代日本に於ける呪術医療の思想的基盤
 稲垣 直……二六二
- 52 「花園天皇宸記」に表われる花園天皇の口腔並に
 顔面の疾病について 戸出 一郎……二六四
- 53 葛原勾当日記にみる歯痛と気象 新藤 恵久……二六六
- 54 エナメル質微細構造の歴史 西卷 明彦……二六八
- 55 敗戦・陸軍少佐青酸自殺・救命処置・蘇生
 中室 嘉祐……二七〇
- 56 軍医寮発足のさいにみられた東校と兵部省の確執
 深瀬 泰旦……二七二
- 57 陸軍軍医講習生仮規則 黒澤 嘉幸……二九四
- 58 史料としてのオランダの「解剖学講義」の画
 石田 純郎……二九六
- 59 G・ビドロの楽譜 中原 泉……二九八
- 60 フランスのムラージュ（蠟製皮膚病模型）について
 今泉 孝……三〇〇
- 61 ジョン・ハンター再考 栗本 宗治……三〇二
- 62 P・J・デソーとその処置デブリドマンについて
 大村 敏郎……三〇四
- 63 マルチエッロ・マルピーギの医学論 伊藤 和行……三〇六
- 64 Moritz Heinrich Romberg——そのプロフィールと
 「脊髄癆」・「半側顔面萎縮症」・「群発頭痛」の原著——
 高橋 昭・伊藤泰広・白水重尚……三〇八
- 65 オキュペーションナル・セラピー（OT）の発展

- 66 ———米国と日本の比較——— 鈴木 明子……三二〇
- 東西医学交流史の側面——脳研究者ハルトウイヒ・
 クーレンベック（二八九七—一九八四）の意識論
 の背景 濱中 淑彦……三二二